

サステナビリティの取り組み

東京レガシーハーフマラソン2024では、国際社会が取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、チャリティ事業、スポーツボランティア活動をはじめ、オフィシャルパートナーや協業先と連携して、東京レガシーハーフマラソンを通じたサステナビリティ(持続可能な大会運営)への取り組みを推進し、LGBTQ+(性的マイノリティ)、障がいの有無などに関わらず、誰もが参加しやすいインクルーシブな社会をつくるための大会運営を行いました。

●大会で使用したペットボトルの水平リサイクル 【ボトル to ボトル】の取り組み

オフィシャルパートナーの大塚製薬株式会社と協働し、各給水所でランナーに提供する飲料のペットボトルを分別回収しました。回収されたペットボトルは、再生ペットボトルの原料に処理・加工され、その原料を用いて製造されたペットボトルは、大塚製薬をはじめ飲料メーカーの飲料容器として再び利用されます。



●給水所で使用した紙コップを回収し リサイクル

オフィシャルパートナーの大塚製薬株式会社と協働し、紙コップのリサイクルを行いました。ランナーに給水所で飲用した後に専用の回収ボックスに入れてもらい回収、回収した紙コップは再生紙の原料として処理・加工され、トイレットペーパーに生まれ変わり、次回大会でも使用される予定です。



●大会にて使用する随行車両の一部に 電気自動車を採用

東京都のゼロエミッションビークル促進活動に連動して、ボルシェジャパン株式会社のご協力により、審判長車等に電気自動車の「タイカン」を貸与いただきました。



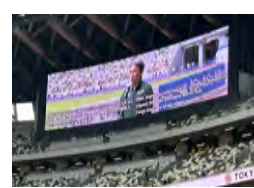
●リユース・リサイクルの促進

大会を通じた廃棄物の削減に向けて、アスリートビブセットの「安全ピン」封入の取りやめ、ボランティア及び審判員のウェアはリユースを促進しました。また、段ボールなど再生可能な資源は回収しリサイクルを行います。



●コミュニケーションのユニバーサルデザイン (UD)化

大会当日、国立競技場において、アナウンス内容を多言語字幕表示することができる「SoundUD」を活用しました。また、視聴覚障害間、多言語対応などさまざまなシーンでのコミュニケーションに対応するため、ボランティア活動向けにアプリ「UD トーク」の活用を推奨しました。



●ナイトリレー／グリーンマイルージプログラム Present Tree

大会前々日に行われる、TOKYO ナイトリレー & 1 マイル in 国立競技場では、参加する皆さまの総走行距離をマイル換算し、グリーンマイルージとして、60マイルごとに Present Tree を通じて東京都檜原村へ1本の植樹を行います。

集計結果：1,883名参加、合計5,203マイル、86本の植樹



●誰でも更衣室、誰でもトイレの設置 (設置場所：国立競技場エリア)

多様な性のあり方に対応した運営及び正しい知識や情報の普及・啓発を「NPO 法人プライドハウス東京」のアドバイスのもと運営ノウハウを構築しました。





サステナビリティの取り組み

●ガイドランナー体験教室

視覚に障がいがある方のランをサポートする「ガイドランナー(伴走者)」としての技術だけでなく、合理的配慮の提供を学び、日常生活におけるコミュニケーションの取り方や、サポート方法についても学びました。

- 日 時 2024年10月18日(金)11:00～13:00
- 会 場 国立競技場
- 講 師 日本ブラインドマラソン協会 常務理事(強化委員長) 安田 享平氏、
2004年アテネパラリンピック金メダリスト 高橋 勇市氏
- 講義・実習内容 ● 座学・・・ブラインドマラソンとは/ガイドランナーとは
● 実習・・・ガイドランナー体験(実践)

参加人数：40名+ボランティア運営サポート隊10名



●バリアフリー講習(国立競技場ダイバーシティツアー)

車いす体験・アイマスクを使った視覚障がい者疑似体験・心のバリアフリーをテーマとした講習を通して、障がいがあると行動にどのような支障があるのかなど、合理的配慮の提供と共に「障がい」について理解を深めていただくことができるプログラムです。国立競技場のバリアフリー設備を巡り、障がいをお持ちの方の目線にたつことで多くの気づきをえられるツアーも実施しました。

- 日 時 2024年10月19日(土)11:00～12:30(ダイバーシティツアー 12:30～13:00)
14:00～15:30(ダイバーシティツアー 15:30～16:00)
- 会 場 国立競技場(諸室・トラック及びその周辺)
- 講 師 東京マラソン財団バリアフリーアドバイザー 瀧山 知弘氏
- 講義・実習内容 ● 座学「マラソンコースが作ってしまう街のバリアをボランティアのチカラでサポートしよう!」
心のバリアフリーとは何か、「困りごと」をイメージし、障がいの方への理解を深めました。
● 体験「相手の気持ちに寄り添うには、まずは少しの体験から」
実際に車いすを使って、基本操作やデモンストレーションを行い、アイマスクを使い、視覚障がい者疑似体験及びサポートする手引きの体験を行いました。
● 国立競技場ダイバーシティツアー
国立競技場内に常設の「カムダウンルーム」「車いすトイレ」「補助犬トイレ」などバリアフリー設備を巡りました。

参加人数：69名+ボランティア運営サポート隊18名



●第3回パラ陸上教室 in 国立競技場

どんな障がいをお持ちの方でもスポーツの聖地・国立競技場のフィールドに立ち、アスリートが感じた興奮と感動を体験することで、次の成長を育み、新たな夢を目指す機会を提供しました。

- 日 時 2024年10月20日(日)14:00～15:30
- 会 場 国立競技場
- 講 師 花岡 伸和(関東パラ陸上競技協会) 他一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
安部 孝駿(ヤマダホールディングス元陸上競技部) 他 MINT TOKYO 陸上部
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
- 実施教室及び募集対象
教室① レーサー(競技用車いす)・フレームランニング陸上教室(定員40名)
募集対象
・小学生以上の陸上競技に関心のある方で車いす利用の方
・小学生以上の陸上競技に関心のある方で脳性麻痺の方
教室② チャレンジ陸上教室(定員80名)
募集対象
・小学生以上の陸上競技に関心のある方で知的障がい、ダウン症の方
・小学生以上の陸上競技に関心のある健常者の方
- MC
M 高史(東京マラソン財団スポーツレガシー事業チャリティ・アンバサダー)
- ゲスト
樋口 政幸 (ブーマージャパン) パラアスリート男子・T54
遠山 勝元 (三菱商事) パラアスリート男子・T54
一ノ瀬 メイ (レガシーアンバサダー 元パラリンピック競泳日本代表)

参加人数：レーサー(競技用車いす)15名・
フレームランニング陸上教室9名・チャレンジ陸上教室63名

